

2014年 6月 6日

2014年3月期 決算説明会

日本山村硝子株式会社

代表取締役社長 山村幸治

2014年4月5日、弊社は創業100周年を迎えました。

このような節目を迎えることができましたのは、ひとえに皆様からのご支援の賜物と深く感謝しております。

今後とも変わらぬご愛顧のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本山村硝子のあゆみ

- 1914年 4月 兵庫県西宮市において山村製壘所として創業。
- 1955年 1月 株式会社に改組し、山村硝子株式会社として発足。
- 1961年 1月 東京工場操業開始。
- 1970年 5月 東京・大阪証券取引所市場第一部上場。
- 1987年 7月 西宮市にニューガラス研究所を新設。
- 1989年 4月 広島硝子工業株式会社と合併。
- 1991年 6月 フィリピンでSMYAC社を設立。
- 1998年10月 日本硝子株式会社と合併し、
日本山村硝子株式会社として発足。
- 2010年 7月 日本電気真空硝子株式会社（山村フォトニクス(株)と改称）を子会社化。
- 2013年 7月 秦皇島方圓包装玻璃有限公司を子会社化。
- 2014年 4月 創業100周年。

目次

- I 2014年3月期 決算内容
- II 2014年3月期 セグメント別業績と計画
- III 新中期経営計画
- IV トピックス

目次

I 2014年3月期 決算内容

II 2014年3月期 セグメント別業績と計画

III 新中期経営計画

IV トピックス

連結損益計算書

単位:百万円(百万円未満切捨)

	2013/03	売上高比	2014/03	売上高比	増減額	増減率
売上高	70,539	100.0%	71,887	100.0%	1,348	101.9%
営業費用	70,425	99.8	72,633	101.0	2,208	103.1%
売上原価	59,133	83.8	60,865	84.7	1,732	102.9%
販売費及び一般管理費	11,292	16.0	11,768	16.4	476	104.2%
営業利益	114	0.2	△ 746	-	△ 860	-
営業外収益	978	1.4	1,014	1.4	36	103.7%
受取利息	4		2			
受取配当金	66		73			
持分法による投資利益	643		654			
その他	263		281			
営業外費用	576	0.8	857	1.2	281	148.8%
支払利息	332		374			
その他	242		482			
経常利益	516	0.7	△ 589	-	△ 1,105	-
特別利益	903	1.3	3,551	4.9	2,648	393.2%
固定資産売却益	-		10			
特別修繕引当金戻入額	903		3,541			
特別損失	612	0.9	5,917	8.2	5,305	966.8%
固定資産廃棄損	82		51			
固定資産売却損	3		-			
減損損失	456		2,741			
事業構造改善費用	-		2,859			
事業撤退損	-		71			
環境対策費	-		193			
その他	71		-			
税金等調整前当期純利益	806	1.1	△ 2,955	-	△ 3,761	-
当期純利益	209	0.3	△ 2,660	-	△ 2,869	-

セグメント情報

セグメント	決算期	売上高 (百万円)	セグメント利益 (百万円)	利益率 (%)	概況
ガラスびん 関連事業	14/03期	45,793	△ 696	-	中国の秦皇島方圓包装玻璃有限公司の持分を取得し、連結子会社化したことにより、セグメント売上高は増収。セグメント利益は、特別修繕引当金の繰入廃止やコスト削減(労務費、修繕費等)を強力に推進するも、損失計上の連結子会社もあり、前期より赤字が拡大。
	13/03期	44,576	△ 429	-	
	増減率	102.7%	162.2%		
プラスチック 容器関連事業	14/03期	10,246	△ 425	-	キャップの出荷量は国内のアセプティックキャップや山村ウタマ・インドプラスを連結対象としたこともあり堅調推移。しかし、ペットボトルの出荷量が大きく減少し減収。セグメント利益は、電力料金の上昇、ペットボトルの生産調整に伴う固定費負担の増等により損失計上。
	13/03期	10,645	254	2.4%	
	増減率	96.3%	-		
物流関連事業	14/03期	12,049	95	0.8%	新規事業の受注や既存物流業務の取扱い量増加により増収。新規事業の初期費用や不採算事業からの撤退費用負担等によりコスト削減進まず減益。
	13/03期	11,443	271	2.4%	
	増減率	105.3%	35.1%		
ニューガラス 関連事業	14/03期	3,799	75	2.0%	山村フォトニクス(株)の光関連部品や当社ニューガラスカンパニーのセラミックコンデンサ用粉末ガラスおよび太陽電池用粉末ガラスの出荷増。しかし、PDP用粉末ガラスが生産終了し減収。セグメント利益は、生産効率の改善、労務費・経費等のコスト削減を実施し利益を計上。
	13/03期	3,874	△ 147	-	
	増減率	98.1%	-		

(注)セグメント利益は連結損益計算書の営業利益との調整を行っております。

連結貸借対照表(資産の部)

単位:百万円(百万円未満切捨)

	2013/03末	2014/03末	増減額
流動資産	39,207	41,477	2,270
現金及び預金	8,807	8,853	46
受取手形及び売掛金	19,484	19,815	331
商品及び製品	6,996	7,775	779
仕掛品	446	397	△ 49
原材料及び貯蔵品	2,407	2,616	209
その他	1,075	2,030	955
貸倒引当金	△ 11	△ 11	0
固定資産	54,071	56,795	2,724
有形固定資産	29,680	27,270	△ 2,410
無形固定資産	320	3,814	3,494
投資その他の資産	24,070	25,710	1,640
投資有価証券	3,499	3,826	327
関係会社株式	18,188	19,401	1,213
その他	2,433	2,523	90
貸倒引当金	△ 52	△ 43	9
資産合計	93,278	98,273	4,995

連結貸借対照表(負債・純資産の部)

単位:百万円(百万円未満切捨)

	2013/03末	2014/03末	増減額
流動負債	16,409	24,448	8,039
支払手形及び買掛金	7,134	9,147	2,013
短期借入金	5,261	9,835	4,574
その他	4,010	5,461	1,451
固定負債	23,349	21,218	△ 2,131
社債	1,000	1,000	0
長期借入金	14,980	15,165	185
退職給付に係る負債	3,078	3,140	62
特別修繕引当金	3,541	—	△3,541
その他	748	1,911	1,163
負債合計	39,759	45,667	5,908
資本金	14,074	14,074	0
資本剰余金	17,300	17,300	0
利益剰余金	25,667	22,093	△ 3,574
自己株式	△ 1,222	△ 1,225	△ 3
其他有価証券評価差額金	661	884	223
為替換算調整勘定	△ 3,009	△ 95	2,914
退職給付に係る調整累計額	—	△ 953	△ 953
その他	△ 0	△ 102	△ 102
少数株主持分	47	629	582
純資産合計	53,519	52,605	△ 914
負債及び純資産合計	93,278	98,273	4,995

連結キャッシュフロー計算書(要約)

単位:百万円(百万円未満切捨)

	2013/03	2014/03	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	2,538	2,068	△470
投資活動によるキャッシュフロー	△3,136	△5,578	△2,442
財務活動によるキャッシュフロー	△1,624	3,423	5,047
現金及び現金同等物に係る換算差額	20	80	60
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,202	△6	2,196
現金及び現金同等物の期首残高	10,752	8,807	△1,945
新規連結に伴う現金及び現金同等物増加	256	52	△204
現金及び現金同等物の期末残高	8,807	8,853	46

2013/03期主な項目

◇ 営業活動キャッシュフロー

- ①持分法による投資利益(△643)
- ②特別修繕引当金の減少(△901)
- ③税金等調整前当期純利益(806)
- ④減価償却費(3,806)

◇ 投資活動キャッシュフロー

- ①貸付金の回収による収入(791)
- ②有形固定資産の取得による支出(△3,051)
- ③関係会社株式の取得による支出(△757)

◇ 財務活動キャッシュフロー

- ①長期借入金の返済による支出(純額で△1,300)

2014/03期主な項目

◇ 営業活動キャッシュフロー

- ①持分法による投資利益(△654)
- ②特別修繕引当金の減少(△3,541)
- ③税金等調整前当期純損失(△2,955)
- ④減損損失・減価償却費(6,428)
- ⑤事業構造改善費用・引当金(2,459)

◇ 投資活動キャッシュフロー

- ①有形固定資産の取得による支出(△2,145)
- ②関係会社出資金の払込による支出(△3,694)

◇ 財務活動キャッシュフロー

- ①長期・短期借入金の純増減額(4,185)

目次

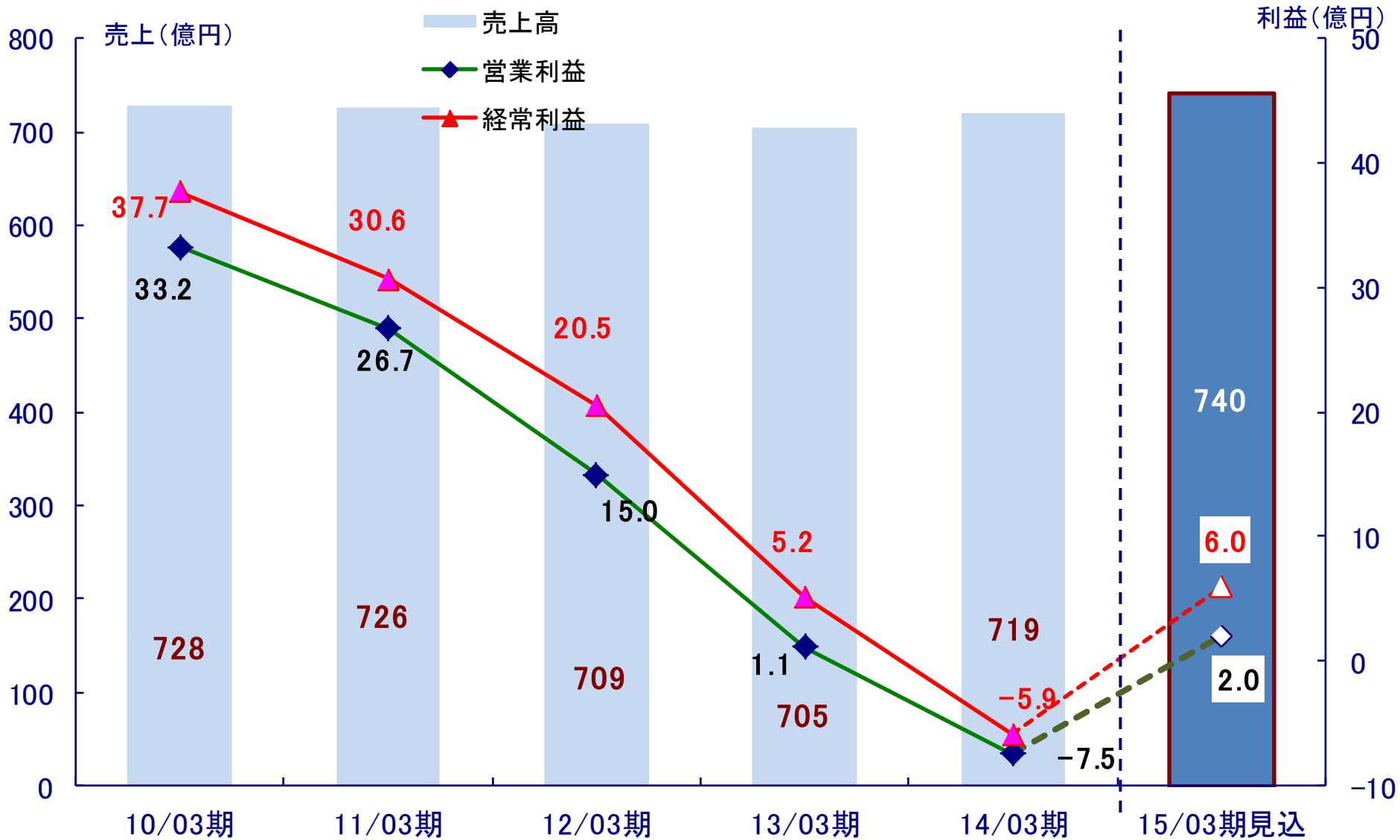
I 2014年3月期 決算内容

II 2014年3月期 セグメント別業績と計画

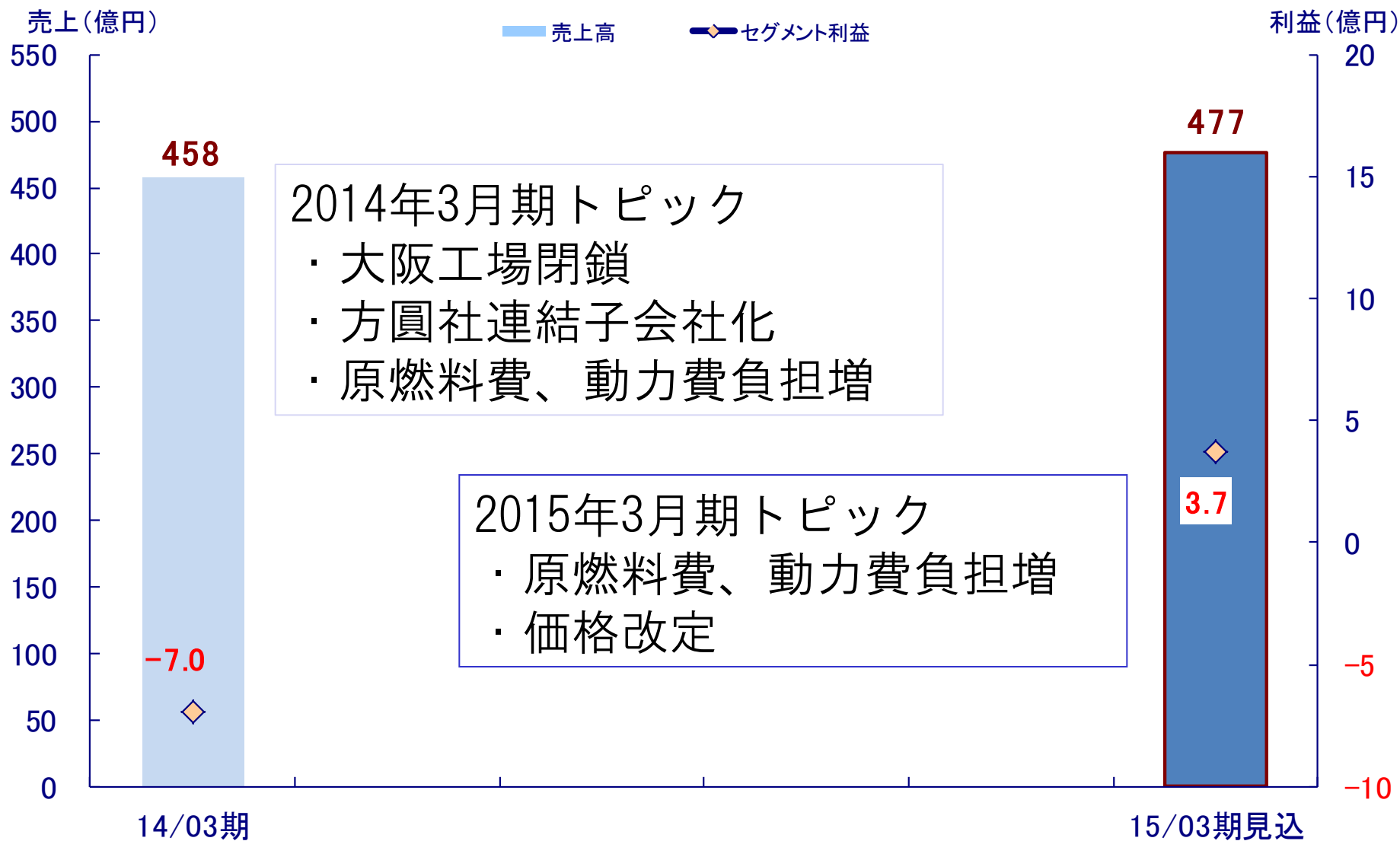
III 新中期経営計画

IV トピックス

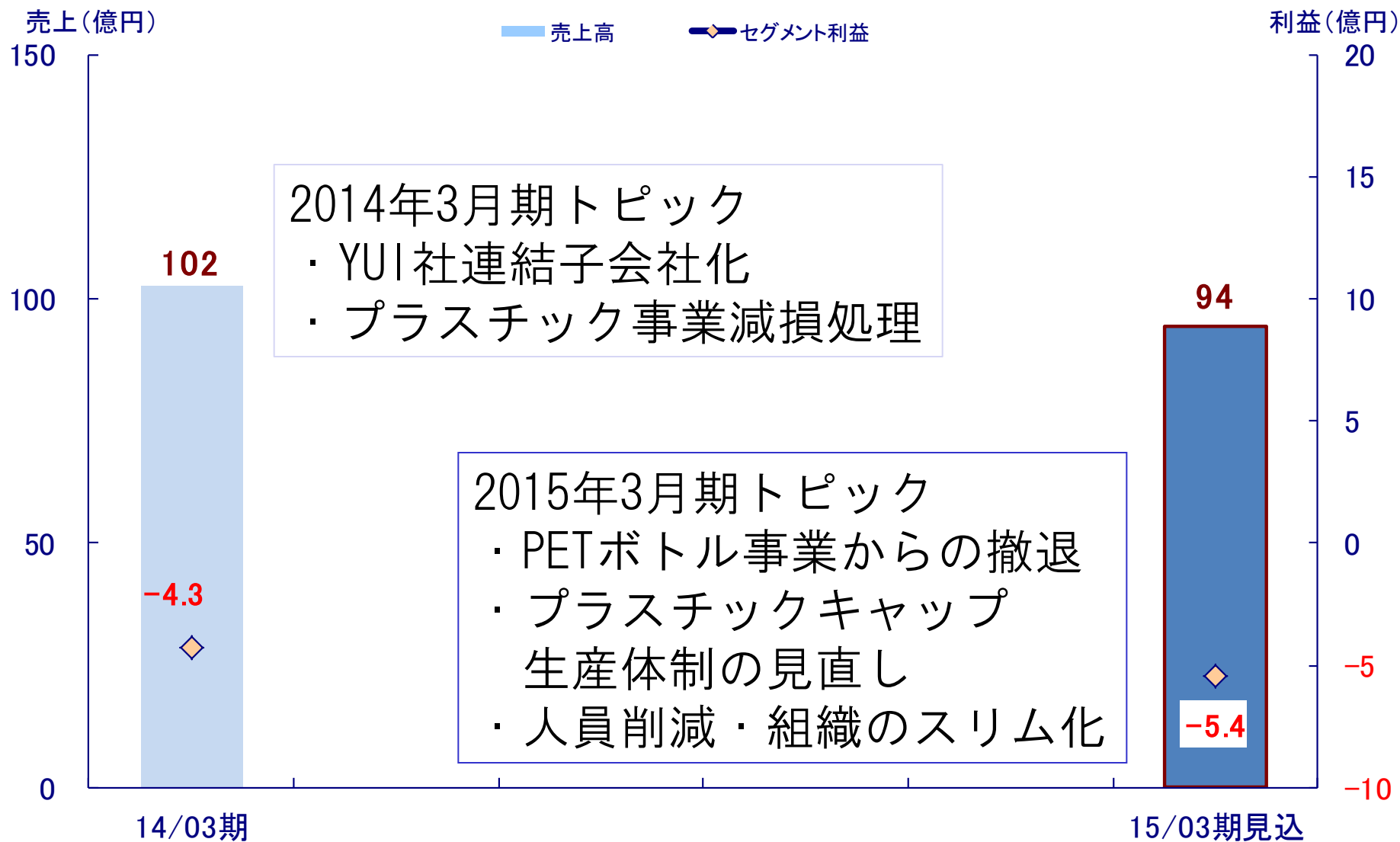
連結業績推移



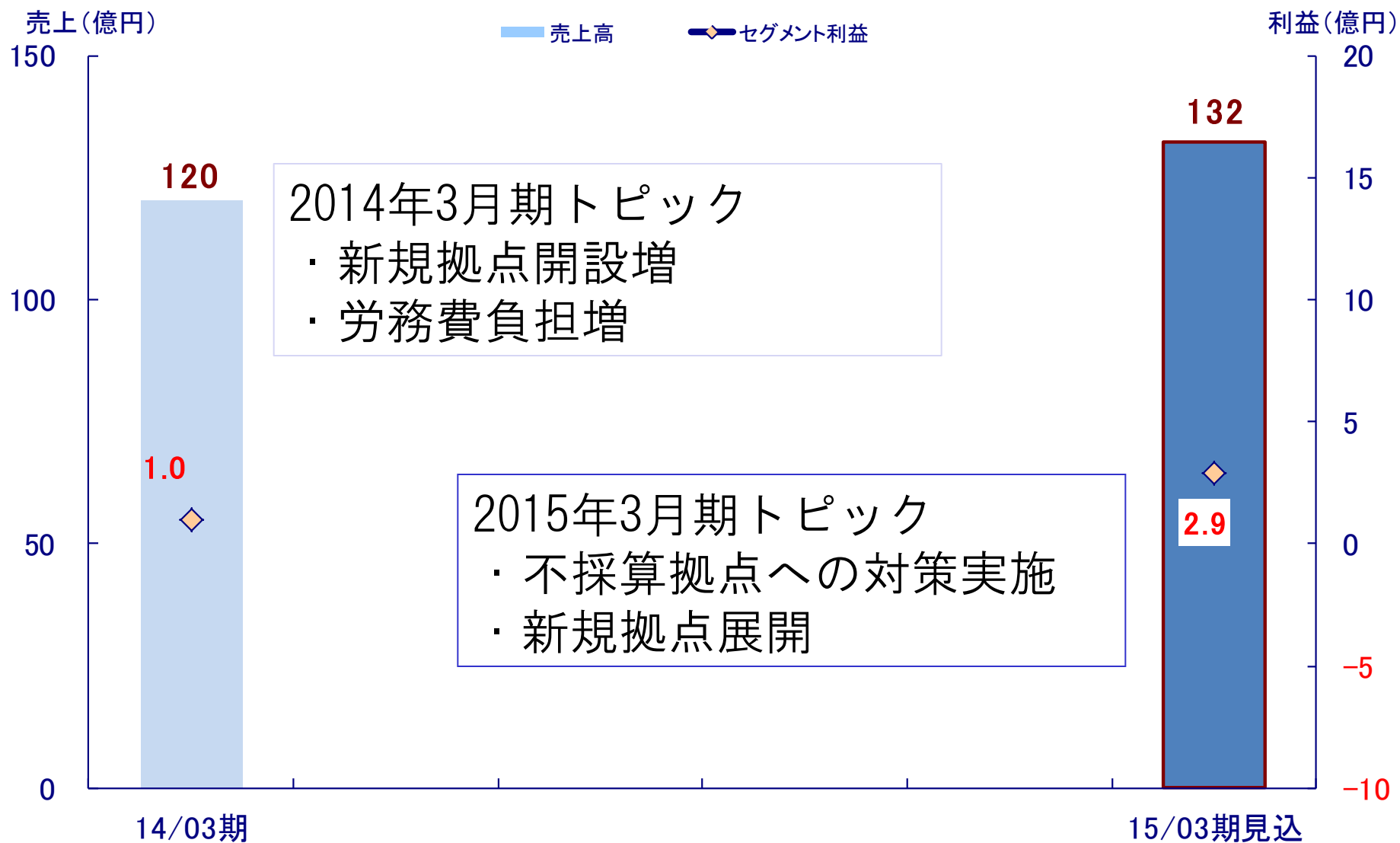
業績推移ーガラスびん関連事業



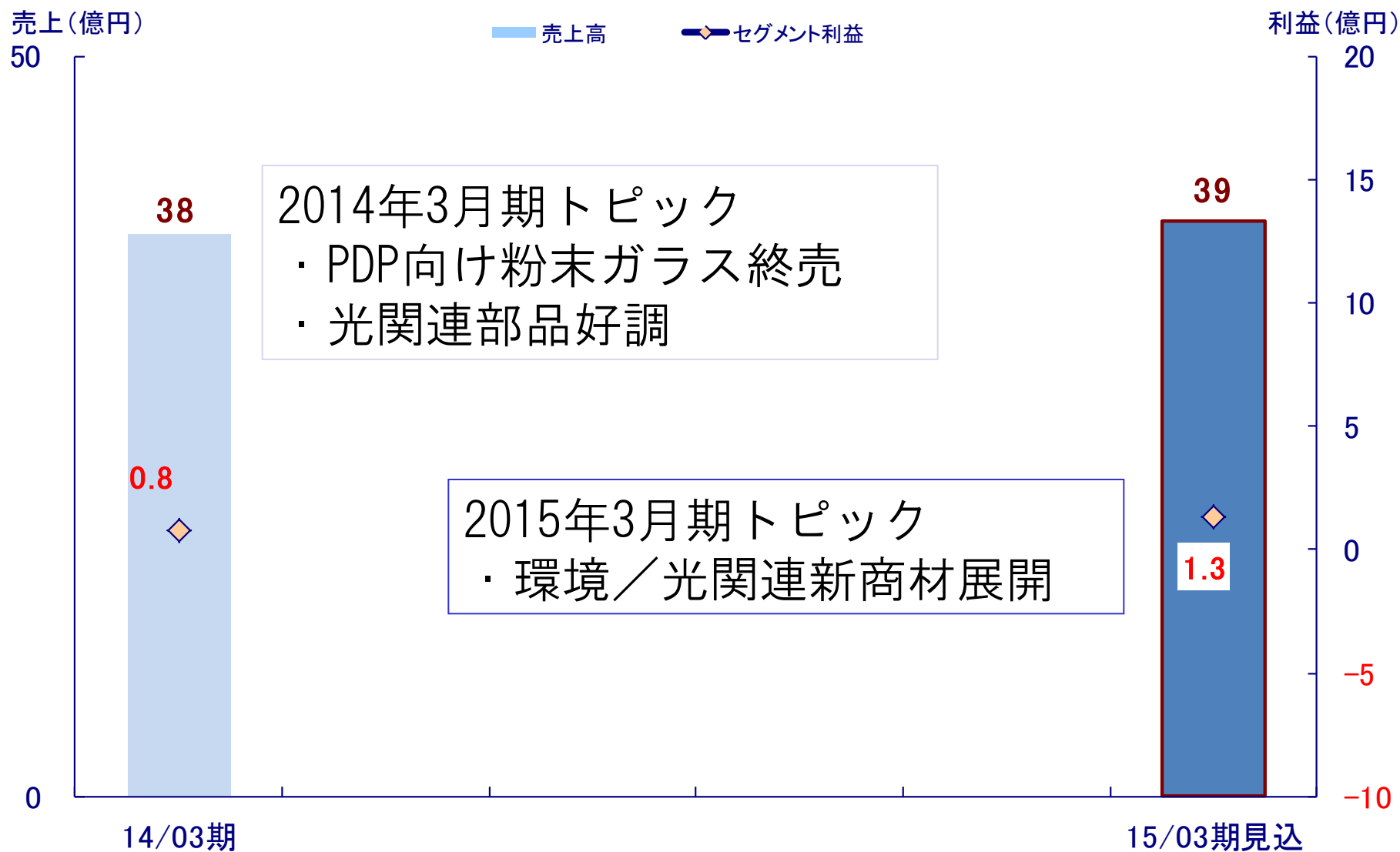
業績推移ープラスチック容器関連事業



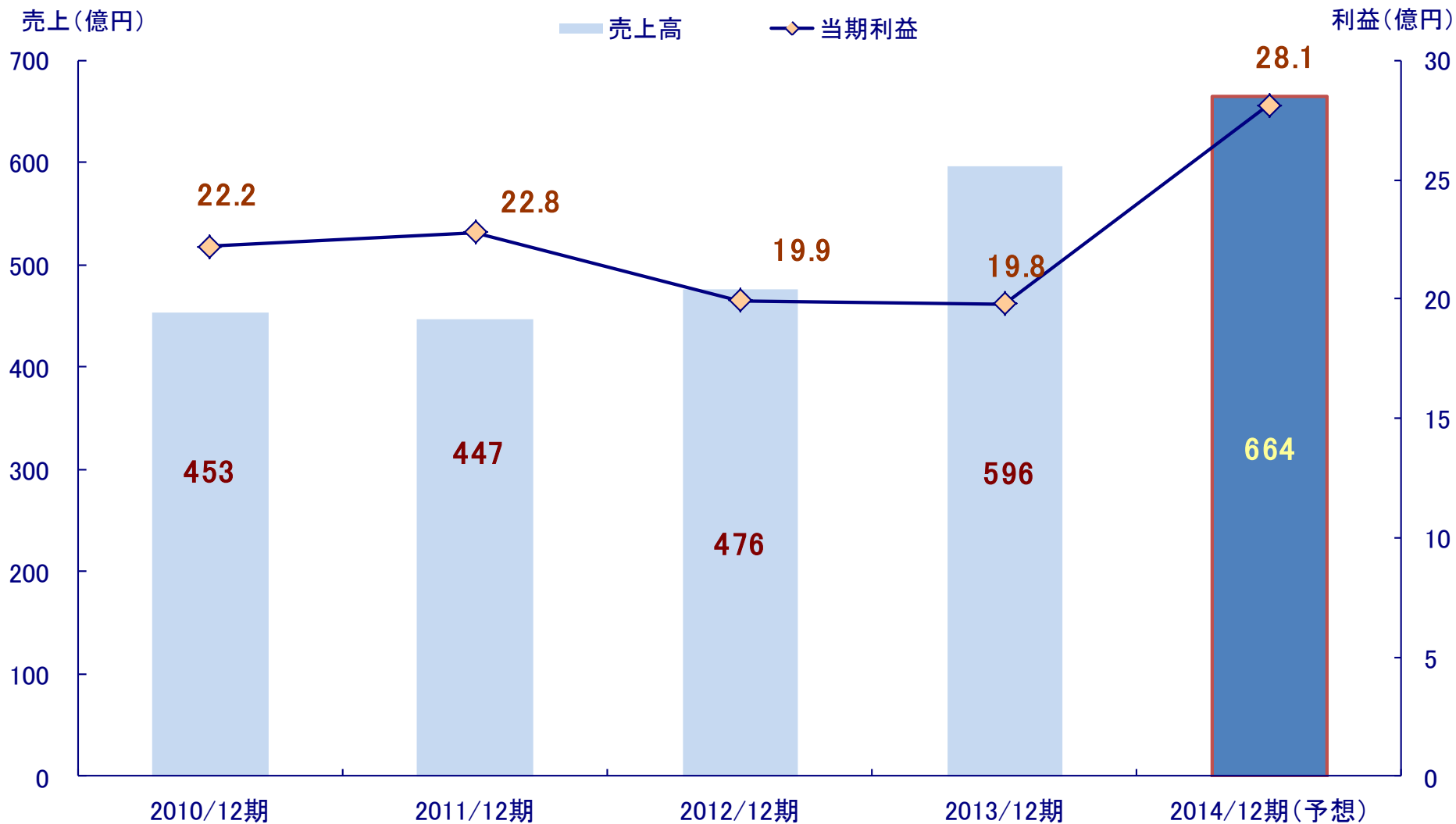
業績推移—物流関連事業



業績推移ーニューガラス関連事業



ご参考：海外関係会社の業績推移



注) 当社の利益は持株比率となります。

目次

I 2014年3月期 決算内容

II 2014年3月期 セグメント別業績と計画

III 新中期経営計画

IV トピックス

前中期経営計画レビュー

パッケージング事業の再編と国際化

- 大阪工場閉鎖
- 秦皇島方圓包装玻璃有限公司社
子会社化
- 山村ウタマ・インドプラス
(YUI)社設立

- 【ガラスびん】
- 製造拠点効率化の遅れ
- 原燃料価格高騰への対応（値上げ、省エネ）
- 【プラスチック容器】
- 販売減、原料・動力費高騰への対応
- 【海外】
- M&A不足、投資の見極め

ニューガラス事業の多角化

- 山村フォトニクス社子会社化

- セグメント内のシナジーが不十分
- 新商材開発の遅れ

新規事業とR&Dの推進

- 植物工場の事業化

- 次期開発テーマ選定

成果

反省点

新中期経営計画

前中期経営計画にも掲げた
「世界のYAMAMURAへ一心と技術を伝えたい」
を継承、さらに徹底推進してまいります。

経営方針

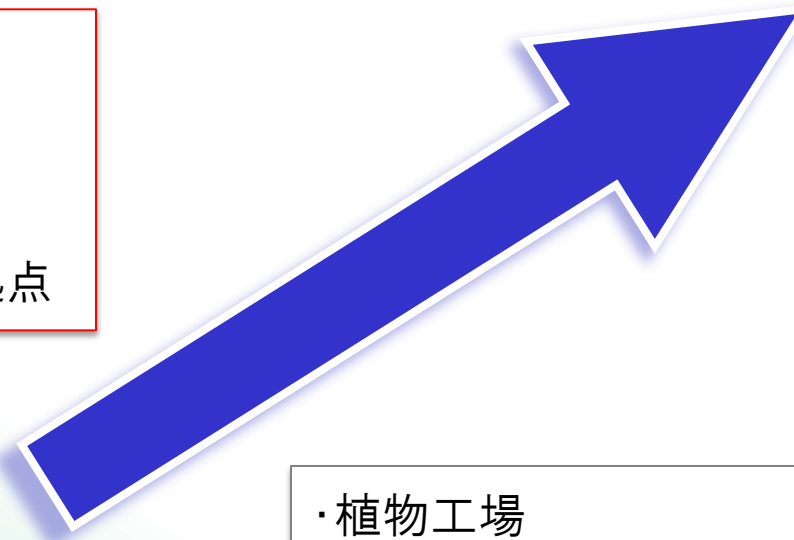
- パッケージング事業の再構築と国際化
- ニューガラス事業の多角化
- 新規事業とR&Dの推進
- グループ戦略の浸透
- グループコーポレート機能の強化
- 人材基盤の確立

新中期経営計画の方向性と施策

<海外展開>

- ・展誠社
- ・YUI社
- ・方圓社
- ・SMYPG各拠点

成長戦略



<国内再構築>

- ・大阪工場閉鎖
- ・PETボトル撤退
- ・希望退職実施
- ・報酬削減
- ・環境対策
など

- ・植物工場
- ・ネクストパッケージ
- ・ニューガラス(主に環境／光関連)

<国内新規事業>

連結業績推移(中長期)

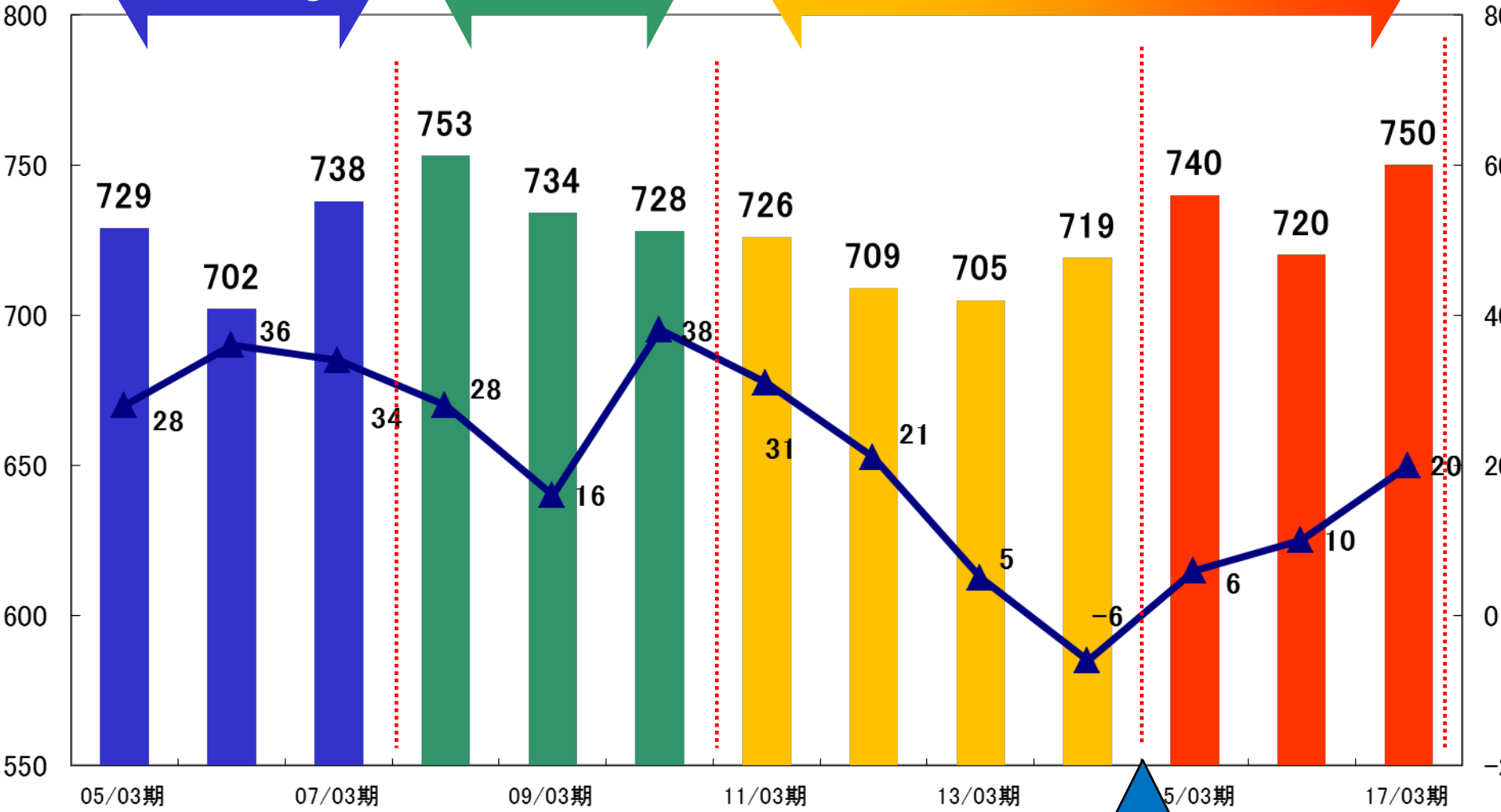
■売上高(連結) ▲経常利益(連結)

単位:億円

Next Stage

Evolution

世界のYAMAMURAへ



目次

I 2014年3月期 決算内容

II 2014年3月期 セグメント別業績と計画

III 新中期経営計画

IV **トピックス**

中国のガラスびん製造会社を子会社化

中国河北省でワインびん等の製造・販売を行なっている秦皇島方圓包装玻璃有限公司を子会社化しました。

- ・ 会社名 秦皇島方圓包装玻璃有限公司
(英文名 Yamamura Glass Qinhuangdao Co., Ltd. (YGQ).)
- ・ 所在地 中国河北省秦皇島市
- ・ 創業 1958 年
- ・ 主な事業内容 ガラスびんの製造・販売
- ・ 生産能力 約20万トン／年
- ・ 決算期 12 月
- ・ 資本金 14,334 千元 (約215百万円)
- ・ 総資産 286,785千元 (約4,302百万円)
- ・ 従業員数 約600名
- ・ 主要生産品目
ビールびん、ワインびん
- ・ 今後の展開
中国国内の外資系、及びアメリカ、カナダ、スペイン等海外への展開



山村グループのグローバル・ネットワーク



大阪工場の閉鎖

収益改善策のひとつとして、2013年12月16日、50年間に及んだガラスびんカンパニー大阪工場の操業を停止しました。

- 1963年 3月 旧広島硝子工業大阪工場として操業開始
- 1989年 4月 旧山村硝子と旧広島硝子工業が合併
- 2000年 8月 北自動倉庫稼働開始
- 2013年12月 生産を停止



大規模太陽光発電事業への参画

宇都宮工場 (栃木県宇都宮市)

当社設備にて発電、東京電力社に売電

- ・パネル枚数 3,750枚
- ・パネル面積 約4,600m²
- ・年間発電量 約573,000kWh



埼玉工場 (埼玉県熊谷市)

建屋屋根をオリックス社に賃貸、同社設備にて発電

- ・パネル枚数 8,832枚
- ・パネル面積 約19,000m²
- ・年間発電量 約2,389,000kWh

植物工場の事業開始

兵庫県尼崎市にて完全制御型植物工場を設置し、各種葉菜類の栽培及び販売を開始いたします。

今後は、食用の野菜に留まらず、薬用などより付加価値の高い植物の生産に進出し、事業の拡大を目指して研究開発を継続してまいります。

事業の概要

- (1) 事業の内容 植物工場
- (2) 事業の担当部署 研究開発センター
- (3) 事業を行う場所 兵庫県尼崎市西向島町111番
- (4) 建設開始年月 2014年5月
- (5) 事業開始年月 2014年10月予定
- (6) 生産量 約140トン(年間計画)
- (7) 販売額 100百万円以上(年間計画)
- (8) 事業開始のための投資額 約500百万円



(研究開発センターでの試作の様子)

「機能・エコ・利便性から選ぶ！容器展」に出展

研究開発センターにて取り組んでいるテーマ「ネクストパッケージ」に関し、大阪産業創造館で行われた「機能・エコ・利便性から選ぶ！容器展」に出展しました。

出展ブースでは、開発中の「PGPシリーズ」について試作品を展示・説明し、来場者より好評を博しました。



PGP® シリーズ

既存パウチのようなエッジがなく
手触り感向上!!

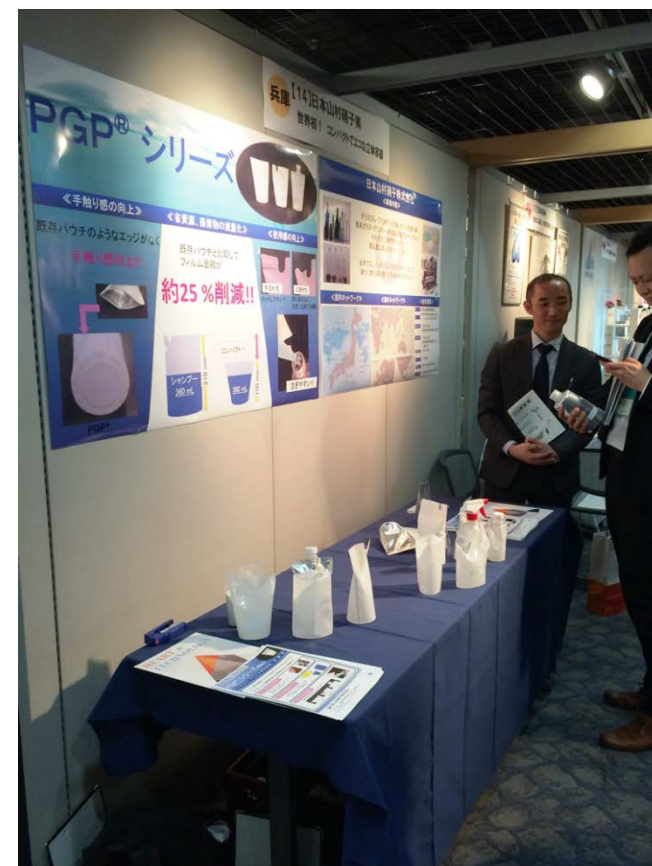
既存パウチと比較して
フィルム面積が…
約25%削減!!

コンパクト!
シャンプー 360 mL (高さ 210 mm)
360 mL (高さ 150 mm)

手切れ性
カットしやすい!

口開き性
開口部が広く、
自然に注ぎ口が開く

注ぎやすい!!



(出展ブースの様子)

日時:2014年4月23日(水)

場所:大阪産業創造館3F マーケットプラザ

当社ブースへの来場:94社117名様

NO_x低減技術開発の成功

当社は、大阪府立大学大学院工学研究科機械系専攻の大久保雅章教授らのグループと共同で、ガラス溶解炉排ガスのプラズマ複合処理によるNO_x低減技術の開発に成功いたしました。

昨今の世界的な環境問題に対する関心の高まりにより、アジアを含めた各国の環境負荷物質の排出規制は年々厳しくなっております。このような背景から、ガラス溶解炉においても同様に、環境負荷量低減に向けた対応が今後ますます求められてゆくと考えております。今後の展開として、世界中に多数存在するガラス溶解炉向け排ガス処理装置への適用を行ってまいります。

ご参考) 公立大学法人大阪府立大学ホームページ

<http://www.osakafu-u.ac.jp/info/publicity/release/2014/pr20140513.html>

世界のYAMAMURAへ

—心と技術を伝えたい—



ご清聴

ありがとうございました。

この絵「Vision Art (ビジョンアート)」は、山村グループ経営幹部全員の「世界のYAMAMURAへ」に対する想いをアーティストに描いてもらったものです。
山村グループが、創業以来育んできた「心と技術を通じ社会に貢献する」精神を大切に、世界に誇れる「YAMAMURA」ブランドを確立したい、その意志を1枚の絵で表現しています。

皆さんはこの絵から、何を感じますか？

 日本山村硝子株式会社

 日本山村硝子株式会社